

「林業生産専門技術者」養成プログラムについて — 演習林が行う社会人教育 —

芦原誠一
高隈演習林

緒言

高隈演習林では、社会人向けの教育プログラムとして、林業の木材生産現場で働く人たちを対象とした研修会を行っている。今年で10年目になるプログラムの概要を紹介する。

近年の林業の動向

日本の林業は、戦後の拡大造林の成果として木材資源が充実していることを背景に、人工林を「育てる時代」から「利用する時代」へとすでにシフトしている。近年では、木材自給率アップ(実質的な「倍増」)を掲げた政策などが後押ししたこともあり、生産現場の機械化、作業路網の密度の向上などが行われてきた。また、国策としてバイオマス発電が推進されたことも下支えとなり、木材需要・自給率ともにわずかながら増加している(表1)。また、林業労働者数は、ピーク時の50万人から現在は5万人程度で下げ止まり、若年者率が高まる傾向にある(表2)。このような状況の中で、木材生産の「近代化」と「倍増」を掲げた一方で、現場を担う人材育成の(これまでの)取り組みに問題があるのではないかとの認識が、本プログラムを始めた契機となった。

プログラムの経緯

本プログラムが始まる以前に、鹿児島大学農学部森林科学コースの一部の教員が、産官学の連携する自主的な勉強会(2005-)と、林野庁の行うプロジェクト(複数 2006-、2011-)の事務局を担っていた。ここで得られた問題意識や産業界の声をもとにして、2007年に、社会人向けの教育課程である「林業生産専門技術者」養成プログラムと、社会人大学院コースを発足した。演習林の技術職員は、プログラム開始時より、実習現場の提供・指導・受講者としてこれに携わってきた。そして、2010年からは演習林がプログラム事務局を引き継ぎ、教員、のちに技術職員がこれを担当している。

プログラムの概要

対象者: 木材生産業の現場リーダー、その候補者

定員: 12名

時間数: 120時間(全23日)。6~10月にかけて演習林で合宿。1科目を1泊2日~3泊4日で行う。

特典: 履修証明書、CPDポイントの発行、職業実践力育成プログラム(BP)の認定(文科省)など(図1)

教育目標: 「新しい時代の林業親方をつくる」(図2)

(1) 市場の動向に対応できる (2) 環境・安全に配慮できる (3) 持続的な経営ができる

実施体制: 中核として森林科学系講座の教員5名と演習林職員。講師は外部者を含めて34名

実施経費: 支出160万円(うち演習林90万円、外部資金70万円)

収入50万円(受講料として演習林に入る)

講義内容: 必修4科目と選択7科目(うち4科目を選択)。グループ演習、屋外実習も重視(図3)

今後の課題

今後の課題、あるいは、事務局担当者としての問題意識を、背景の階層ごとに列挙すると次のとおりである。

(1) 日本における職業と教育の接続性と、大学が行う社会人教育の動向。

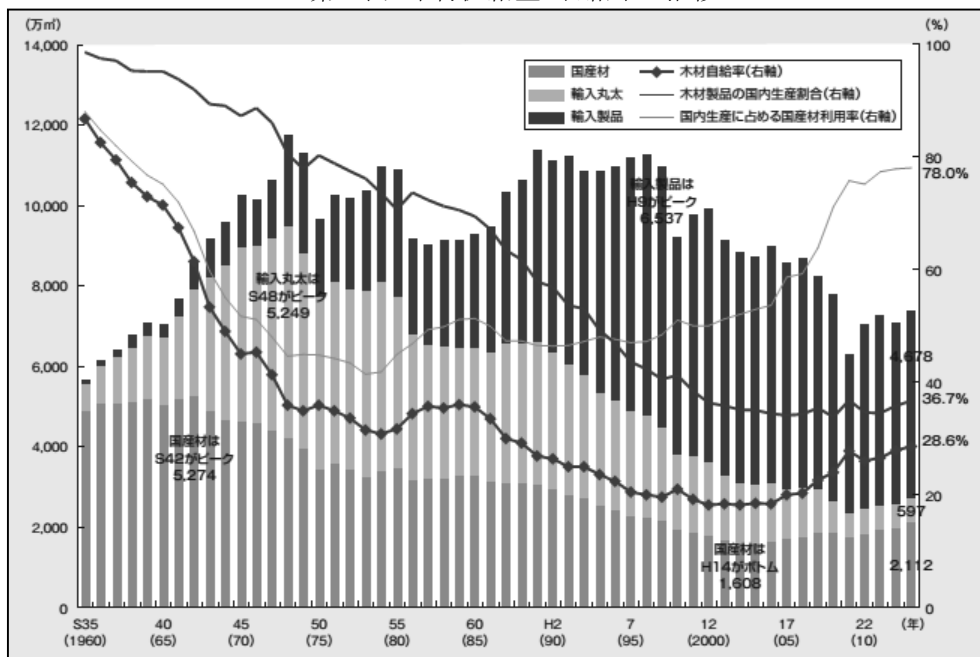
(2) 林業界における人材育成機会の増加と大学との関係性。

(3) 演習林の業務内容の変化と労働力の配分問題。

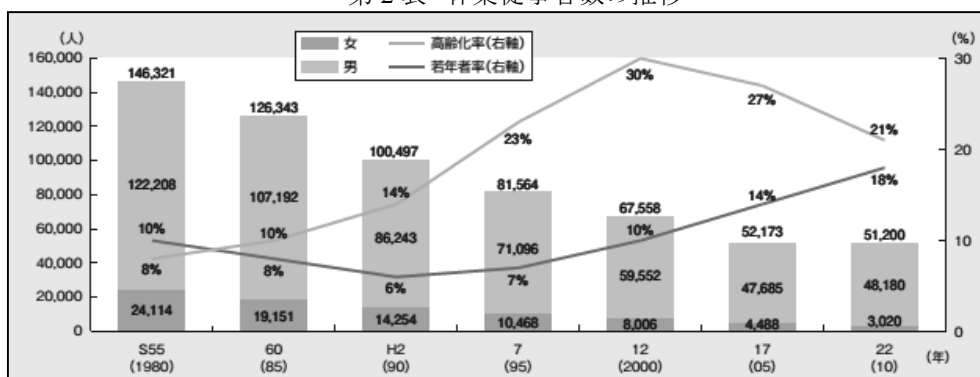
(4) プログラムの質と量の改善。

最後に私見を述べれば、附属施設としてのあるべき業務内容の取捨選択は、このように複層的な背景を考慮したうえで、戦略的に判断しなければならないと考えている。

第1表 木材供給量と自給率の推移



第2表 林業従事者数の推移



第1図 職業実践力育成プログラム(BP)認定ロゴ



第2図 プログラムのロゴマーク



第3図 研修写真(屋外実習)